

※クリックすると記事のページを開きます。

① 2016 年受入（2016 年 11 月）	2
-短期 Joint Education Program 開催報告（タンデム学習）	2
-短期 JEP 概要	4
② 2017 年度受入（2017 年 7 月）	10
-短期 JEP 概要	10
-短期 JEP タンデム学習	13
-短期 JEP 参加報告①：ショートステイ サマープログラムの感想	17
-短期 JEP 参加報告②： 短期ジョイントエデュケーション「タンデム学習」とショートステイサマープログラムの感想	19
③ 2018 年度受入（2018 年 7 月）	21
-短期 JEP 概要：2018 年度短期 Joint Education Program ラオス受入れについて	21
-短期 JEP タンデム学習報告	24
-短期 JEP 参加報告①：TUFS ショートステイ サマープログラムの思い出	28
-短期 JEP 参加報告②：TUFS ショートステイ サマープログラムに参加して	31
④ 2019 年度受入（2019 年 7 月）	33
- 短期 JEP 概要：「短期 Joint Education Program ラオス受入れ」について	33
-短期 JEP タンデム学習報告	35
-短期 JEP 参加報告：東京外国語大学の短期ジョイントエデュケーションプログラムの思い出	39

① 2016 年受入（2016 年 11 月）：短期 Joint Education Program 開催報告 （タンデム学習）

2016 年 11 月 19 日～29 日（ヤンゴン大学）、同 11 月 21 日～30 日（ラオス国立大学、王立プノンペン大学）の日程で、世界展開力強化事業「日本発信力強化に貢献するミャンマー・ラオス・カンボジア知日人材養成プログラム」短期 Joint Education Program が実施されました。



左：カンボジア語のタンデム学習の様子、右：ラオスからプット副学長の講演

ヤンゴン大学 3 名、ラオス国立大学 4 名、王立プノンペン大学 6 名の、計 13 名の学生を受け入れ、本学学生とタンデム学習を行いました。タンデム学習を通じ、双方学生の語学力向上はもちろんのこと、コミュニケーション力、主体的行動力、異文化受容力等を養うことにもつながりました。

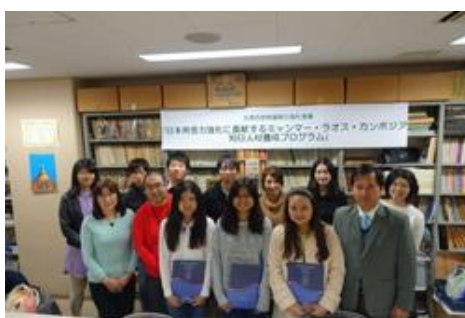
また、協定校から来日したラオス国立大学 Phout SIMMALAVONG 副学長および Mixay SOUKCHALEUN 日本語学科長、王立プノンペン大学 Oum RAVY 副学長および Duong CHANMETTACHAMPAVIENG コミュニティ開発科専任講師による講義も行われました。

閉講式には受入学生はもとより、ビルマ語、ラオス語、カンボジア語を学ぶ本学学生も多く参加し、全員で歌ったり踊ったりと、交流の深まりを感じさせるものとなりました。

▼ 学修風景（左：ラオス語のタンデム学習、右：王立プノンペン大学教員の講演）



▼ 短期 Joint Education Program 閉講式（左：ラオス国立大学、王立プノンペン大学、右：ヤンゴン大学）



▼ 研修旅行（左：11/24 雪の鎌倉大仏、右：11/26 浅草研修）



▼ 日本文化体験



-短期 JEP 概要

◆スケジュール（2016 年 11 月 21 日～11 月 30 日）

日 時	内 容
11/21 (月)	ラオス ビエンチャンを出発
11/22 (火)	成田空港到着、東京外国語大学へ オリエンテーション・ウェルカムパーティー・開講式・ホテルへ
11/23 (水)	キャンパスツアー・外語祭見学・プット先生講演・グループワーク討論
11/24 (木)	一日研修その① 高德院・鶴岡八幡宮など
11/25 (金)	ラオス語授業見学・ミーサイ先生講演・グループワーク討論・図書館見学
11/26 (土)	一日研修その② 江戸東京博物館・浅草寺など
11/27 (日)	終日自由
11/28 (月)	成果発表会準備・書道体験
11/29 (火)	成果発表会・閉講式（修了証書授与）・お別れ会・成田空港へ
11/30 (水)	ラオスへ帰国

◆講演の講師とタイトル

（１）Assoc.Prof. Dr. Phout SIMMALAVONG（ラオス国立大学副学長）

「ラオス国立大学の紹介とラオスの米文化について」

（２）Mr. Mixay SOUKCHALEUN（同大学文学部日本語学科長）

「ラオスにおける日本語事情・留学事情」



日本滞在中は、ラオス語を専攻する３・４年生とグループを組んで、両国の言語・文化・社会について学びました。左はキャンパスツアーの途中で東外大モニュメント前での１枚。

-短期 JEP 報告

2016 年 11 月 21 日～30 日の日程で、短期 Joint Education Program の一環として、協定校であるラオス国立大学より副学長、日本語学科長、日本語を専攻する学生 4 名が本学を訪問し、ラオス語を専攻する本学学生とタンデム学習を行い、さまざまな体験をしました。

以下に参加したラオス学生(L 緑字)と日本人学生(J 青字)の感想を入れながらその 10 日間を紹介いたします。(別紙「スケジュール」参照)

11 月 21～22 日

11 月 21 日の夜、首都ビエンチャンを出発。東南アジアで唯一、日本への直行便がないので、ベトナムで飛行機を乗り継ぎ、22 日の早朝、成田に到着しました。

「初めて飛行機に乗り、初めて海を見て感激！でした。降り立った成田は刺すような寒さでしたが、日本に来たことが嬉しくて、着いたときのことはよく覚えていません。(L)」

「開講式はこれから仲良くなれるのか、少し不安でしたが、タンデム学習のグルーピングで S さんと一緒になり、自己紹介の後、ラオス語や日本語であれこれ話しながらホテルまで送りました。自分が話すラオス語が通じたので嬉しかったです。(J)」



(開講式)



(歓迎会)

11月23日

東京外国語大学はちょうど外語祭の時期。

「ラオス語劇、ラオス料理を堪能し、その後、プット副学長の講演を聞き、K さんと内容をまとめました。先生の講演でラオスの大学の様子を知ることができました。(J)」



(プット副学長の講演)



(外語祭 ラオス料理店の前にて)

11月24日

この日は鎌倉へ。日本歴史文化学習の日です。

「雪！ 思いがけず東京で雪を見ることができて、幸運でした。鎌倉はすごい雪で、寒かったのですが、楽しかったです。(L)」



(雪の鎌倉にて)

11月25日

「今日は大学と一緒に勉強。ラオス語会話の授業やミーサイ日本語学科長の講演を聞いたあと、グループワークとして、ラオスと日本の相違点などを中心に意見交換をし、講演のまとめを行いました。(J)」



(ミーサイ日本語学科長の講演)

11月26日

江戸東京博物館、浅草寺の学外研修日。

「説明プレートの日本語がよくわからなかったのですが、Aさんがラオス語で説明してくれました。日本のいろいろなものを初めて見たり触ったりすることができ、日本文化を学ぶことができました。(L)」



(浅草寺にて)



(スカイツリーをバックに)

11月27日

この日は日曜日でしたので自由行動。それぞれ、買い物や友人に会ったりして楽しんだようです。

「新宿駅は人が一杯でした。渋谷の大きな横断歩道の写真をたくさんとりました。(L)」

11月28日

明日の成果発表会に向けての準備をしました。書道も初めて体験。

「Sくんが筆と一緒に握ってくれて、私の好きな言葉を書かせてもらいました。帰国してもやってみようと思います。(L)」



(書道体験)

11月29日

最後のタンデム学習授業は、ラオス語を履修している他の学年も参加して、成果発表会を各グループで行いました。

「日本語を大勢の前で話すのはとても緊張しましたが、私の日本語をわかってくれて、とても嬉しかったです。最後はみんなでラオスの踊りを踊りました。(L)」



(ラオスダンスを皆で)



(成果発表会)

「閉講式では、林副学長から修了証書をいただきました。同じ時期に来たカンボジアやミャンマーの学生さんたちとも友達になったので、このプログラムはとてもよいプログラムだと思います。最後のお別れは悲しかったのですが、夜、成田へ移動しました。(L)」

「自分達が1年生の最後に短期研修でラオスに行ったときにお世話になった皆が来てくれて、そのお返しができれば、と思い、がんばりました。疲れましたが達成感がありました。日本語やあらためて日本の文化や歴史について考えることもできました。(J)」



(修了証書授与)



(修了式)

11月30日

ラオスへ帰国。

「今回の経験を後輩たちに伝えて、これからもっと日本語を勉強しようという気持ちです。今度、外大の学生さんがラオス国立大学に来たら、このようにいろいろ一緒にやりたいと思います。(L)」

10日間という短い滞在でしたが、ラオスの学生も一緒に学んだ日本人学生も相手国の言語・文化などを集中して学ぶことができました。両国の学生にとって今後の学習指針の一助となるように、これからも有益で親密な交流を続けていきたいと思います。

以上

② 2017 年度受入（2017 年 7 月）

-短期 JEP 概要

2017 年度ラオス短期 Joint Education Program ラオス受け入れ事業は、7 月 12 日～8 月 6 日までの日程で、ラオス国立大学文学部日本語学科の 3 年次生 3 名（男 1・女 2）2 年次生 2 名（男 1・女 1）、合計 5 名を本学に受け入れました。以下にその内容と全体スケジュールをご報告いたします。

本プログラムの目的である「自立的な知日人材育成」を目指して、ラオス側とも協議の上、日本語を専攻している学生が、まず本学でラオス語を学ぶ日本人学生とともにタンデム学習を行い、その次に同じ日本語を専門的に学んでいる世界各国からの学生とともに留学生日本語教育センターの「サマープログラム」に参加する、という日程を組みました。このことにより、前半では両国の学生がラオスと日本の理解を互いに深め、自身の学習方法や学習指針の一助となることを目指し、後半では同じ目的をもつ諸外国の学生と切磋琢磨して日本語能力を伸ばすこととし、ラオスの学生にとって内容の大変濃い約 1 ヶ月間の滞在となりました。

具体的な内容として前半は、日本人学生とラオス人学生がペアになって、日本語だけ、あるいはラオス語だけの学習や発表の場を設けたり、協定校の教員による講義を受け、グループディスカッションを行ったりしました。後半は、レベル別に毎日、日本語を専門的に学ぶとともに、さまざまな日本文化体験に参加することによって日本の理解を深めました。終了後のアンケートでは、「日本語の専門的知識や運用能力が飛躍的に伸びた」、「日本の文化や社会を身近に感じることができ、より関心を持つようになった」、「同じ目的を持つ外国人留学生とともに勉強することはラオスではできない経験だ」、「日本人と勉強して帰国後は両国の比較を行いたいと思った」など、学生自身も参加の成果を実感したようです。とくに最後の修了発表



（タンデム学習）



（図書館見学）



（日本語の授業）

会で、他の留学生と同じようにパワーポイントを使って、自分の考えを日本語で考えて順序だてて発表する、という経験は、ラオスの学生にとって大きな刺激と自信となり、最終日に修了証と成績証明書を授与されたときは本当に嬉しそうでした。

全行程の日程は次の表に示すとおりです。青字がラオス語専攻生とのタンデム学習期間、茶色字が留学生日本語センターのサマープログラム期間となっています。

ここに改めて全日程を通して、さまざまなことにご協力くださいました先生方、事務職員の方をはじめ、関係者の皆様にご心よりお礼を申し上げます。

◆ タンデム学習 & ショートステイサマープログラムスケジュール

(青文字がタンデム学習、茶文字がショートステイサマープログラムです)

月 日	行 動
7 月 12 日	ラオス発
7 月 13 日	日本着 開講式；オリエンテーション、自己紹介、大学案内、グループ編成、ワークプラン立案
7 月 14 日	授業内講演（「独立後のラオス史」ブントウィー先生）
	授業内講演（「ラオスの諺について～ラオスと日本の諺を比較して～」ワンカーン先生）
	授業内講演（「ラオスの地理と開発」ブントウィー先生）
	授業内講演（「ラオス語における表記の誤用」ワンカーン先生）
	書道、校外研修準備
7 月 15 日	校外研修（鎌倉見学；高德院、鶴岡八幡宮及び周辺）
7 月 16 日	休日
7 月 17 日	成果発表会（発表、討論）、閉講式、お別れ交流会、ホテルチェックアウト、大学寮入寮
7 月 18 日	TUFS ショートステイプログラム開始、オリエンテーション、大学案内、ウェルカムパーティー
7 月 19 日	日本語授業、日本人学生との交流授業、研修オリエンテーション

7 月 20 日	日本語授業、日本文化に関する授業（俳句）
7 月 21 日	日本語授業
7 月 22 日	一日研修（江戸東京博物館など）
7 月 23 日	休日
7 月 24 日	日本語授業、校外研修（立川防災館）
7 月 25 日	日本語授業
7 月 26 日	日本語授業、日本人学生との交流授業、日本文化体験（浴衣の着付け体験）
7 月 27 日	日本語授業、日本文化に関する授業（歌舞伎見学）
7 月 28 日	日本語授業、日本文化体験（書道体験）
7 月 29 日	ホームビジット（日本人家庭訪問）
7 月 30 日	休日
7 月 31 日	日本語授業
8 月 1 日	日本語授業、日本文化体験（茶道体験）
8 月 2 日	日本語授業、日本人学生との交流授業
8 月 3 日	修了発表会、アンケート
8 月 4 日	ショートステイプログラム閉講式、フェアウェルパーティー
8 月 5 日	大学内寮退寮、日本発、帰国（8 月 6 日 ラオス到着）

-短期 JEP タンデム学習

平成 29 年度 大学の世界展開力強化事業「日本発信力強化に貢献するミャンマー・ラオス・カンボジア知日人材養成プログラム」の短期 Joint Education Program の一環として、2017 年 7 月 13 日～17 日の日程で、協定校であるラオス国立大学よりブンタウィー・ソーサムパン社会科学部副学部長、ワンカーン・タムパマンコーン文学部日本語学科副学科長と共に日本語を専攻する学生 5 名が本学を訪問し、ラオス語を専攻する本学学生とタンデム学習を行いました。

* 7 月 13 日

前日の夜行便でハノイを経由し、早朝に成田に着きました。皆、初めて見る日本の景色にドキドキ。大学到着後、さっそく開講式に臨みます。



(開講式 林副学長挨拶)



(開講式)

開講式のあと、お互いの学習言語による自己紹介、特定外国語主任教員スリカン先生の日本滞在・大学生活に関するオリエンテーション、図書館見学などのキャンパスツアーを行いました。



(オリエンテーション)



(図書館見学)

＊7月14日

この日は本格的なタンデム学習が開講されました。ラオス国立大学ブンタウィー・ソーサムパン社会科学部副学部長（1限「独立後のラオス史」、3限「ラオスの地理と開発」）とワンカーン・タムパマンコン文学部日本語学科副学科長（2限「ラオスの諺について～ラオスと日本の諺を比較して～」、4限「ラオス語における表記の誤用」）の講演を聞き、その後、ラオス人学生と日本人学生がグループごとに内容をまとめ、意見交換をしました。



（ブンタウィー・ソーサムパン社会科学部副学部長（左）とワンカーン・タムパマンコン文学部日本語学科副学科長の講演（右））



（講演後には講義のまとめを一緒に作成）



（意見交換）

講演後、この日最後の授業「書道」がありました。皆、初めての体験です。日本人学生のアドバイスのもと、真剣な表情で筆を握り、それぞれ好きな字を書きました。なかなかの出来栄です。



(書道初体験)



(お気に入りの作品で記念撮影)

*7月15日

この日はとても暑い一日でしたが、鎌倉へ。日本歴史文化学習の日です。

バスはホテルを出発し、まずは高德院へと向かいます。が、土曜日とあって大渋滞。ようやく、高德院へ着きました。早速、大仏を見学。そして、午後は鶴岡八幡宮へ。見学の後はグループに分かれて自由散策です。ラオスにはない海に行ったり、ショッピングをしたり思い出の多い一日になりました。



(大仏の前で全員集合)



(鎌倉散策)

*7月16日

この日は日曜日なので、お休みでした。以前から行きたいと思っていたところへ出かけたり、発表の準備をしたり、疲れを癒したり、と各自思い思いの一日を過ごしたようです。

*7月17日

はやいものでこの日はタンデム学習最終日。まず、成果発表会に向けて、グループごとに共同で発表の準備をしました。

そしていよいよ発表。緊張の中、皆の前でそれぞれの作文を読み上げました。



(テーマを決めて日本語で作文)



(成果を発表)

最後に閉講式を行いました。本学留学生課 大八木課長より、ラオス人学生一人一人に修了証書が授与されました。そしてサプライズ企画で、同じグループの日本人学生からラオス人学生にメッセージカードが手渡され、数日間でいかに親交が深まったかを感じさせる、心温まる式となりました。



日本人学生とのタンデム学習はこれで終わりましたが、7月18日から8月4日まで留学生日本語教育センターによるショートステイ・サマープログラムに引き続き参加します。本格的な日本語の学習や浴衣の着付け、日本人家庭へのホームビジットなど、盛りだくさんの3週間となります。

以上

-短期 JEP 参加報告①：ショートステイ サマープログラムの感想

スヴェンナサーン・スパンサー

私はこのプログラムで中国人や韓国人といったいろいろな国の人と日本語を学ぶ機会を得ることができました。これはとても楽しく良い経験だったと思います。他の国の学生と多くのことを通して学びあい、交流を深めることができたからです。

このプログラムでは、日本語の勉強のほかに様々な国の学生や日本人学生といっしょにいろいろな活動をしました。例えばゆかたを着たり、茶道をしたり、博物館を見学したり、他にもいろいろなところへ行ったりなどです。これらはただ、日本語の勉強や会話だけでなく、おもしろい文化や習慣、日常生活についてもたくさん知ることができて、とてもよかったです。

また、私は日本人の家庭を訪問することができました。日本人の家族と出会い、みんなでたくさん話ができ、とてもうれしかったです。私にはとても新鮮で、貴重なすばらしい体験でした。





プログラムの最後に日本語での学習発表会がありました。私は「ラオスと日本の道路」について発表しました。私には初めてのことで、とてもドキドキしました。しかし、先生や仲間みんながアドバイスをくれ、助けてくれました。みんな上手でした。私はうまくいか不安でしたが、うまくできたので終わった後、ホッとしました。この発表会も楽しいよい経験だったと思います。

日本での今回のプログラムは楽しいことばかりで、短く感じました。

けれども短い間にも新しい知識を得たり、新しい経験をすることができました。先生方や日本人学生はとてもやさしく、勉強や過ごし方についていろいろアドバイスをしてくれました。

日本で生活して、実際に日本語を使うことができる機会をくださって、どうもありがとうございました。

(ラオス国立大学文学部日本語学科4年)

-短期 JEP 参加報告②：

短期ジョイントエデュケーション「タンデム学習」とショートステイサマープログラムの感想

ウォンサイ・ナムフォン

こんにちは、ウォンサイ・ナムフォンです。現在、ラオス国立大学文学部4年生で、日本語を勉強しています。

今回、7月13日から3週間、東京外国語大学で勉強することができました。この間、私はたくさんの新しい経験をし、いろいろなことを学び、特にラオスと全く違う日本の文化を学びました。

3週間の勉強の間、日本人だけではなく、多くの国の人たちと友達になりました。それぞれ言葉は違いますが、みんな一生懸命勉強し、日本語で話をしました。

私たちは教室での日本語の勉強だけではなく、博物館など、いろいろなところに見学に行きましたし、学校で日本文化を体験しました。例えば、私はゆかたを着させてもらいました。

私は花柄のゆかたを選びました。初めてだったのでドキドキしましたがとてもうれしかったです。

最後の日の日本語の発表でもゆかたを着たことを話しました。

7月29日には日本人の家庭でいっしょに食事をする機会がありました。私は本を見たり、お母さんに教えてもらいながら日本の味噌汁の作り方を学びました。そしてお父さん、お母さんたちといっしょに食事を楽しみました。また、私たちは電車の乗り方を間違えたのですが、お母さんたちはとても心配してくれていました。とても温かい気持ちになって、本当の家族のように思いました。



【ラオスの友人と（右から2番目が筆者）】



日本人は計画的でいつもきれいにしていて、きちんと時間を守るのは素晴らしいと思いました。私も見習おうと思います。

日本人の先生はとてもやさしくて、いつも私たちをいろいろ助けてくれました。励ましてくれたり、常に声をかけてくれた先生方や友人に感謝しています。

頑張って日本語を話す勇気が身につきました。



【日本人の友人と（真ん中が筆者）】

③ 2018 年度受入（2018 年 7 月）

-短期 JEP 概要：2018 年度短期 Joint Education Program ラオス受入れについて

ラオス班

2018 年度ラオス短期 Joint Education Program ラオス受け入れ事業は、7 月 17 日～8 月 10 日までの日程で、ラオス国立大学文学部日本語学科の 3 年次生 3 名（女 3） 2 年次生 2 名（男 1・女 1）、合計 5 名を本学に受け入れました。以下にその内容と全体スケジュールをご報告いたします。

本プログラムの目的である「自立的な知日人材養成」を鑑みて、ラオス国立大学で日本語を専攻している学生が、

①本学でラオス語を学ぶ日本人学生とともにタンデム学習を行う

②日本語を専門的に学んでいる世界各国からの学生とともに留学生日本語教育センターの「サマープログラム」に参加して日本語や日本文化を専門的に勉強する

というプログラムを組みました。このことにより、前半では両国の学生がラオスと日本の理解を互いに深め、自身の学習指針の一助となることを目指し、後半では同じ目的をもつ諸外国の学生と切磋琢磨して日本語能力を伸ばすこととし、ラオスの学生にとって内容の濃い約 1 ヶ月間の滞在となりました。

全行程の日程は次の表に示すとおりです。青文字がラオス語専攻生とのタンデム学習期間、茶文字が留学生日本語センターのサマープログラム期間となっています。最後は台風の影響で出発が大幅に遅れ、予定よりも一日遅い帰国となるオマケつきでしたが、学生はより長く日本に滞在できたよかった、という報告をくれました。

ここに改めてご協力くださいました先生方、事務職員の方をはじめ、関係者の皆様に心よりお礼を申し上げます。



開講式



アルソ文学部長の講演



サマープログラム最終日の研究発表

短期 Joint Education Program

タンデム学習 & ショートステイサマープログラム スケジュール

(2018.07.17. - 08.10.実施)

(青文字がタンデム学習、茶文字がショートステイサマープログラムです)

月 日	行 動
7 月 17 日	ラオス発
	日本着
7 月 18 日	開講式；オリエンテーション、自己紹介、グループ編成、ワークプラン立案、大学周辺案内
	授業内講演（「ラオスにおける外国語学習事情～ラオス青少年の外国語学習の状況～」マライカム先生）
	授業内講演（「ラオス国立大学文学部の概要」アルン先生）
	府中市給食センター見学（ミャンマー班と共同）
7 月 19 日	授業内講演（「異文化コミュニケーション～ラオスと日本の学生が選ぶ会話トピックの比較～」マライカム先生）
	授業内講演（「ラオス社会における礼儀作法」アルン先生）
7 月 20 日	校外研修（横浜見学；三菱みなとみらい技術館及びその周辺）、成果発表準備
7 月 21 日	書道体験、成果発表会（発表、討論）、閉講式、着物の着付け体験
7 月 22 日	ホテルチェックアウト、大学寮入寮
7 月 23 日	TUFS ショートステイプログラム開始、オリエンテーション、ウェルカムランチ、大学案内
7 月 24 日	日本語授業、校外研修（立川防災館）
7 月 25 日	日本語授業、日本人学生との交流授業
7 月 26 日	日本語授業、日本文化に関する授業（俳句）
7 月 27 日	日本語授業、日本文化体験（書道）

7 月 28 日	一日文化研修
7 月 29 日	休日
7 月 30 日	日本語授業、日本文化体験（華道）
7 月 31 日	日本語授業、日本文化体験（茶道）
8 月 1 日	日本語授業、日本人学生との交流授業
8 月 2 日	日本語授業、日本文化に関する授業（歌舞伎・日本の歴史）
8 月 3 日	日本語授業
8 月 4 日	ホームビジット
8 月 5 日	休日
8 月 6 日	日本語授業、発表準備
8 月 7 日	修了発表会、アンケート
8 月 8 日	ショートステイプログラム閉講式、フェアウェルパーティー
8 月 9 日	大学内寮退寮、日本発、帰国（8 月 1 1 日 ラオス到着台風のため遅延）

-短期 JEP タンデム学習報告

ラオス学生の東京外国語大学ショートステイ～東京外国語大学学生とタンデム学習を実施～

2018 年 7 月 18 日～21 日

特定外国語主任教員 スリカン・タムマウォン



世界展開力強化事業として大学間交流の推進を目的とした短期 Joint Education Program「日本発信力強化に貢献するミャンマー・ラオス・カンボジア知日人材養成プログラム」が、2018 年 7 月 18 日から 21 日までの間、開催されました。ラオス国立大学より日本語学科の学生 5

人と、アルン・シーラタナクン文学部長、マライカム・サヤコン日本語学科教員が来日しました。一方、東京外国語大学ラオス語専攻の日本人学生がラオス人学生とともに学ぶために参加しました。

7 月 18 日

ラオス人学生一行は、ベトナムのハノイを経由して、成田空港に到着しました。初めて日本を訪れた学生たちは皆、期待に満ち溢れていました。東京外国語大学に到着したのち、午後からは開講式に臨みました。匂坂克久 本学理事より歓迎の挨拶があり、またアルン・シーラタナクン先生よりご挨拶をいただきました。開講式の後、それぞれ自己紹介をしました。

それから、まずスリカン・タムマウォン先生がオリエンテーションを行いました。続いて、日本人学生とラオス人学生といっしょに、マライカム先生の講義「ラオスにおける外国語学習事情～ラオス青少年の外国語学習の状況～」を受けました。その後、日本人学生とラオス人学生とで意見交換やレポートの作成をしました。

7 月 19 日

2 日目のこの日は日本人学生とラオス人学生とでいっしょに学びました。

まず、第 1 限目はアルン先生の「ラオス国立大学文学部の概要」、第 4 限目はマライカム先生の「異文化コミュニケーション～ラオスと日本の学生が選ぶ会話トピックの比較～」そして第 5 限目は再びアルン先生で「ラオス社会における礼儀作

法」でした。



アルン先生の授業風景



マライカム先生の授業風景

この日はまた、ラオス語専攻、ミャンマー語専攻双方の Joint Education Program の一環として、いっしょに府中給食センターの見学に行きました。日本人学生、ラオス人学生、ミャンマー人学生がともに給食を食べ、友好を深め、意見を交換するなど大いに盛り上がりました。



給食センターにて

7月20日

この日はとても暑い一日でした。私たちは横浜見学に行きました。各時代の日本のテクノロジーや様々な文化を大いに知るためです。

午前中は三菱みなとみらい博物館を見学し、午後は5班に分かれそれぞれの希望した場所に行きました。例えば、カップヌードルミュージアム、赤レンガ倉庫、横浜みなと博物館です。どのグループもとても楽しそうなようすでした。その後、大学に戻り、日本人学生とラオス人学生は意見交換や今回学習したことをまとめました。



三菱みなとみらい技術館



カップヌードルミュージアム

7月21日

この日は日本人学生とともに学ぶ最後の日です。第1限目は「書道」でした。皆、筆で字を書くのは初めての経験です。日本人学生の指導の下、一生懸命に筆を持って字を書きました。その後、各班に分かれて、成果発表会で発表するための原稿を準備しました。発表会ではラオス人学生はみな、緊張しながらも日本語で堂々と発表できました。



書道体験



成果発表会

閉講式では、福井本学留学生課課長よりラオス人学生に参加証明書が渡されました。そのあと、日本人学生がいっしょに学んだラオス人学生に色紙をプレゼントしました。どのグループもさらに友好を深め、よりよい交流ができた証です。



技術館参加証明書授与



色紙の贈呈

閉講式が終わった後、ラオス人学生と先生方は着物の着付け体験に行きました。着物は日本の大切な文化的衣服の代表であり、とても美しい魅力あふれるものだと思います。

日本人学生との交流授業はこれで終了しました。しかし、ラオス人学生は7月23日から8月8日まで、東京外国語大学 留学生日本語教育センターでの日本語の授業に参加します。そこでは、ラオス人学生以外にも日本語を学んできた外国人学生が、日本の文化や交流授業、日本人家庭でのホームステイなどをします。



最後に着物を着て記念撮影

-短期 JEP 参加報告①：TUFS ショートステイ サマープログラムの思い出



スックチャルーン・ラッタナー

(ラオス国立大学文学部日本語学科 3年生)

今年の夏休み、私は日本のショートステイサマープログラムに参加することができ、日本で3週間過ごしました。今回、私は初めて日本に行ったので、とても緊張しました。日本での生活はラオスでの生活と全然違いました。規則や日本人の生活習慣などがまだ分かりませんでしたから、最初はとても困りました。でも、幸いだったのは、このプログラムはラオス語を勉強している日本人の学生と一緒に授業をする機会があったことです。この授業で私たちはさまざまなことを交流し、日本のことやラオスのことをたくさん話し、友達になりました。見学に行くときや何か分からないときにも日本人の学生は私が理解するまで一生懸命説明してくれて、とても感動しました。私は日本人の学生から日本の習慣を学び、日本で生活しやすくなっていきました。このプログラムは日本人との授業があるだけでなく、外国人と一緒に日本語を勉強する機会もありました。それはとても良い経験になりました。多くの国からの人と日本語を使う機会があり、違う文化や違う言葉の交流ができました。私はたくさんの外国人の友達ができました。特に中国や台湾からの人たちです。授業で私たちは一緒にいろいろな活動をしたり、たくさん日本語を話したりしていました。授業では日本語の勉強だけではなく、日本の文化を勉強する機会もあり、外国人の友達と文化活動をする事で日本の文化についてたくさん知ることができ、とても楽しく、新しい経験ができました。例えば、書道や華道をしたり、俳句と歌舞伎の歴史を勉強したりしました。それ以前にはやったこともないし、あまり知らなかったのですが、自分でやってみ



たら、面白く、興味が出てきました。また教室以外でも、いろいろな場所を見学し学びました。博物館や防災館やいろいろな場所を見学するのは私にとってとても役に立ちました。新しい知識をたくさんもらいました。



このプログラムの最後に学習発表会がありました。発表はグループと一緒にしました。そのことから、私は外国人とのグループで仕事することを学び、一緒にアンケートを作り、データをまとめました。私たちのグループは「大学生の勉強以外の生活」について研究しました。皆とても上手にできました。だれもアンケートをしたことがなかったのですが、皆は一生懸命やり、お互いに助けあい、最後までできて良かったです。この最後の発表も新しい知識を得られて、良い経験になったと思います。

また、日本人の家庭を訪問するチャンスがありました。お母さんはとても優しく、おいしい料理を作ってくれて感動しました。ホストファミリーとたくさん話し、日本の昔のゲームをやりました。ホストファミリーは私にラオスについてたくさんの質問をしてくれ、ラオスのことに興味があるようになったと言ってくれて良かったです。今回のホームビジットはとても暖かい雰囲気の中で、私の本当の家族のように感じました。



今回のプログラムでたくさんことができ、新しい知識や新しい経験をもらいました。このプログラムはとても役に立つと思います。日本語を使う機会がよくあるし、日本の文化や日本の習慣を学ぶこともできるし、たくさんの外国人の友達もできました。それに日本で生活することで、短い間でも私の日本語能力を上げることができました。先生と友達はとても優しく、いろいろなことを助けてくれました。本当にいい思い出になりました。今回のプログラムはいつまでも忘れないと思います。

-短期 JEP 参加報告②：TUFS ショートステイ サマープログラムに参加して

ニラミット・サイソムペン

(ラオス国立大学文学部日本語学科3年生)

私はこのプログラムに参加して、様々な経験ができました。日本語を勉強するとともに、日本の文化を学び、新しい日本人の友達と外国人の友達と一緒に交流しました。日本語の授業では、先生方が熱心に、そして親切にわかりやすく教えてくれました。日本語の授業以外では日本文化を学びました。例えば、華道や、書道や、茶道などです。私が一番気に入ったのは「書道」でした。



また、様々な有名なところに見学に行ったり、ホームビジットをしたりしました。ホームビジットの日、お母さんが素敵な料理を作ってくれました。とてもおいしかったです。また、子供がピアノを弾いてくれて、とてもいい思い出になりました。それから、「かるた」という有名なゲームをしました。とても楽しかったです。



私は、自分の国で勉強するより日本で勉強するほうが日本語が上手になると思い、一生懸命積極的に先生や友達と会話をしました。特に頑張ったのは、最後の発表会です。私は外国人の友達と一緒に日本語で「大学生の悩み」というテーマでアンケートをやり、発表しました。みんなで協力しあったことはとてもよいことでした。

この「ショートステイサマープログラム」はとてもいいところばかりです。日本語を勉強するだけでなく、日本文化も学べます。それに、新しい友達ができ、ともに日本の生活を体験できました。短期間でしたが、私は頑張って勉強し、いろいろなイベントにも参加しました。日本で勉強する機会をくださり、どうもありがとうございました。



④ 2019 年度受入（2019 年 7 月）

-短期 JEP 概要：「短期 Joint Education Program ラオス受入れ」について

ラオス班

2019 年度「短期 Joint Education Program ラオス受入れ」では、7 月 19 日～7 月 26 日までの日程で、ラオス国立大学長ソムスィー・ニョーパンサイ学長と教育学部教員チャンタノーム・ニョーパンサイ先生と共にラオス国立大学文学部日本語学科の 3 年次生 3 名（男 1・女 2）2 年次生 2 名（女）、合計 5 名を本学に受け入れました。4 回目を迎えた今年度は、ラオス国立大学で日本語を専攻している学生が、

①本学でラオス語を学ぶ日本人学生とともにタンデム学習を行う

②同期間に招聘したミャンマーやカンボジアの学生と共に日本の最新技術や伝統文化を学ぶというプログラムを組みました。全行程は次の表に示すとおりです。ここに改めてご協力くださいました先生方、事務職員の方をはじめ、関係者の皆様に心よりお礼を申し上げます。

日程	プログラム内容
7/18（木）	ラオス発（機中泊）
7/19（金）	日本着、開講式・オリエンテーション
7/20（土）	ホームビジット
7/21（日）	学外研修～山梨・富士山方面～
7/22（月）	自己紹介・グループ編成・タンデム学習・茶道体験 授業内講演①「ラオスの教育事情」（ソムスィー学長） 授業内講演②「ラオスについて」（チャンタノーム先生）
7/23（火）	学外研修～豊洲市場・お台場～
7/24（水）	タンデム学習・キャンパスツアー 授業内講演③「おもてなしにおける習慣」（スリカン先生）

	ドキュメンタリー映画鑑賞と討論
7/25（木）	タンデム学習、成果発表会準備、書道、着付け体験
7/26（金）	成果発表会準備、成果発表会、閉講式
7/27（土）	日本発、同日帰国

-短期 JEP タンデム学習報告

ラオス国立大学学生の東京外国語大学ショートステイ

～東京外国語大学生とタンデム学習を実施～

2019 年 7 月 19 日～26 日

特定外国語主任教員

スリカン・タムマウォン

世界展開力強化事業「日本発信力強化に貢献するミャンマー・ラオス・カンボジア知日人材養成プログラム」により、2019 年 7 月 19 日～26 日に短期 Joint Education Program を実施しました。ラオス国立大学からソムスィー・ニョーパンサイ学長、チャンタノーム・ニョーパンサイ教育学部教員と日本語学科の学生 5 人が本学学生とのタンデム学習などを行うために来日しました。

7 月 19 日

19 日午後、ミャンマー・ラオス・カンボジアの 3 国の学生と日本人学生が参加し開講式が行われ、東京外国語大学より林佳世子学長が歓迎の挨拶を述べました。また、三大学を代表し、ラオス国立大学のソムスィー・ニョーパンサイ学長より感謝の意が表されました。

7 月 20 日

この日は「ホーム・ビジット」の日でした。ラオス人学生は日本人の家庭を訪問し、日本料理と一緒に作ったり、子どもたちと日本古来の遊びであるカルタ遊びをしたりしました。ラオス学生にとって、初めて電車に乗っての外出となりました。

7月21日

この日は蒸し暑い日でしたが、私たち教員と3国の学生は日本の文化や日本の様々な最新技術を学ぶために学外研修に出かけました。まず「北口本宮富士浅間神社」にお参りし、神社の周りを散策しました。その後、「富士山世界遺産センター」を訪れ、富士山をめぐる環境保護などについて学びました。最後にリニア見学センターに行き、最新技術について知ることができました。この学外研修はどの学生にとっても印象に残る学びの多い研修となりました。



7月22日

日本人学生とラオス人学生がグループになり、タンデム学習が行われました。まず、ソムスィー・ニョーパンサイ ラオス国立大学長の講演「ラオスの教育事情」、そしてチャントノム・ニョーパンサイ先生による「ラオスについて」です。

講演後にはラオス人学生と日本人学生で意見交換をし、講演のまとめをしました。また、翌日の学外研修の準備をしました。



その後、3国の学生と教員は代表的な日本文化の1つである「茶道」を体験しました。



7月23日

日本人学生とラオス人学生は日本の新鮮な海水魚について学ぶため「豊洲市場」に行きました。その後、お台場へ行き、グループごとに「科学未来館」「防災体験館」などを訪れ、後日レポートを書くため熱心に勉強しました。



7月24日

今日は成果発表にむけた学習の最終日です。スリカン先生による講演「おもてなしにおける習慣」とラオスの自然についてのドキュメンタリー映画の鑑賞をし、日本人学生とラオス人学生とが意見交換をし、内容をまとめました。その後、TUFS内のキャンパスツアーを行いました。

7月25日

この日はまず、「書道」を体験しました。「書道」（筆で文字を書くこと）は、ラオス人学生にとって初めての経験です。日本人学生や先生の指導の下、ラオス人学生たちは一生懸命書きました。そして、それぞれ自分の好きな文字をととても上手に書くことができました。



その後日本人学生とともに、グループワークをし、さらには日本の美しい伝統的な衣装「着物」をみんなで着てみました。



7月26日

早くも最終日となりました。この日はグループごとにレポートを作成し、発表しました。ラオス人学生は日本語で、日本人学生はラオス語で、それぞれ「ラオスと日本における防災」や「ラオスと日本のテクノロジー」「ラオスと日本の食文化」について発表しました。皆、緊張しながらも堂々と言うことができました。



続いて閉講式が行われ、東京外国語大学 林佳世子学長よりラオス人学生一人一人に修了証書が手渡されました。

また、グループごとに日本人学生から記念品が渡され、深い友好関係が築かれたことが示されました。そして皆、笑顔や別れの涙の中でラオスの音楽に合わせて踊り、一生の思い出となるページを閉じました。



-短期 JEP 参加報告：東京外国語大学の短期ジョイントエデュケーションプログラムの思い出

ラオス国立大学文学部日本語学科

サウィーワン・ウォーラウン

1. 日本留学について

私は、今年の乾季休みに東京外国語大学で 8 日間の「日本人学生とラオス人学生とのタンデム学習」に参加することができました。日本に行くのは今回が初めてでしたので、私はとても嬉しくドキドキしていました。日本の文化や日本人の生活様式はもちろん、日本のサービス精神、日本食などもラオスと全然違うだろうと思ってい



ました。ですから初めて日本料理を食べたのですが、ラオス料理とは味が違って、なかなか食べることができませんでした。けれども頑張っているうちに慣れてきました。また、日本の交通事情はとても便利で、毎回どこに行くにも快適でした。

2. 体験・学習について

* 日本人の家庭を訪問することもできました。待ち合わせ場所を勘違いしたために、ホストファミリーのお母さんたちを待たせることになってしまいましたが、自分にとっては今度からもっと気をつけて今後このようなことがないように行動しようという体験となりました。ホストファミリーのお父さん、お母さんはとても優しく、そうめんを作ってください、一緒に食べました。ま



た、子供たちはとてもかわいくて、一緒にカルタで遊びました。とても楽しかったです。帰る前にはお菓子をいただきました。また、100 円や 300 円ショップにも連れて行っていただきました。

* 富士山は日本の有名な山なので、テレビや本では見たことがありましたが、今回、その富士山に行くことができました。それだけではなく、富士山世界遺産センターに行き、富士山についてよく理解することができました。また、富士浅間神社でお参りもしました。



* 日本の防災体験学習施設にも見学に行きました。災害から身を守ること、けがをした時の応急処置など、日本人は常に災害に備えているということがわかり、とても勉強になりました。



今回、初めて書道と茶道を体験しました。これらは古くからの日本の文化で、心が落ち着きました。これらを通して、精神統一などを学びました。また、日本の衣装である着物を着ることができました。着物の着方はとても細かいところまで注意しなければならず、複雑だということがわかりました。



いろいろなところへ研修に出かけただけでなく、日本人学生とオーストラリア人学生とでさまざまな学習をするタンデム学習を行いました。お互いに話し合ったり意見交換したりしながら、それぞれの国についてより理解を深めることができ、とてもよい機会でした。

3. このプログラムに参加した感想や印象に残ったこと

今回このプログラムに参加できてとても嬉しかったです。日本についてたくさん知ることができ、自らの実体験をとおして日本文化についてより理解ができるようになりました。短い期間でしたが、自分が成長できた期間でもありました。勇気をもって話したり、皆の前で発表したことは、今回学んだ日本語や日本文化をいかして将来、就職する上で貴重な経験となりました。



いつも気遣い、助けてくれた先生方や日本人学生の皆さんには本当に感謝しています。皆さんのことは忘れることはないでしょう。このような機会を下さったこのプログラムに対しても心よりお礼を申し上げます。



(写真左：お台場、右：東京外国語大学正門前)